

森は生きている

写真提供
大森正憲氏(S29卒)



東京修猷会

題字・松尾金蔵書
発行
修猷館同窓会東京支部
事務局
東京都豊島区高田
2-18-21吉田ビル3F
(株)社会工学総合研究所 内

変わり行く世に己を見つめて



木の風格

東京修猷会会長 有吉 新吾

枯葉が、音もなく苦しみや未練のかげもなく、はらりと枝から離れて舞い下りるさまを見ると、自分も死ぬときはあ、ありたいなあと思う人が多いのではないだろうか。落ちた枯葉は『落葉帰根』といわれているように、やがて土にかえり栄養分となって根から吸い上げられ再び母体の成長に役立つわけだ。このように木のいのちの営みには、すがすがしいというか、尊厳なものがあるというか、そんなことを考えたりします。

人間は年をとると風雪に磨かれて自ずから風格が具てくるかというところはゆかず、かえって長い人生の苦闘に疲れ果てた哀れな老人になるのが多いように思われます。ところが木の場合は反対で、年輪を重ねるにつれ例外なしにみな風格を具えて来るから不思議です。松や檜や杉は勿論のこと、桜や樺その他の雑木についても同じです。年輪を経た大木は大きく大地に根を張って押せども引けどもびくとせず、がっちりした幹や天空に伸ばした枝の全体から、物に動かない堂々たる風格がにじみ出て来るように思われます。この木と人間との相違は一体どうして起るのか、これが久しく私の念頭から離れない疑問でありました。もともと、同じ七、八十才といっても人間は寿命の終りに近い老人であるのに木の方はその寿命からいうとまだ青年の年齢であって、これを対等に比較するのはおかしい、という異論はありまじう、しかし木がその寿命に近い三、四百年または千年迄生き延びた姿を考えると、その木は風格を通り越して靈氣を帯びた神木の境に達し人間との差は益々開くばかりでしょう。

そこでこの疑問を解くために、とに角木に関する本をあれこれ読んでみましたがこの疑問に答えてくれる本は見当りませんでした。ただ大変面白く、また教えられることの多かった本はやはり、長年法隆寺改修や薬師寺金堂再建に当たられた宮大工棟梁西岡常一氏と建築工学の専門家小原千葉大教授の共著になる

『法隆寺を支えた木』という本と、幸田文さんの『木』という随筆集の二著でありました。前者では法隆寺の樹齢二千年の檜の柱は今でもほんの二、三ミリ鉋をかけると赤褐色の生き生きとした木肌が現われ檜特有の芳香が漂い出すとか、軒を支える構架材の垂木の檜が屋根の重みで曲つてたれ下つていたのが修理のため瓦や屋根土を降ろしたところ二、三日でその曲りが元の姿に戻つたとか、木は生きている、という棟梁の話にはいたく感銘を覚えましたし、また千三百年経つた現在の法隆寺の檜材の強さは創建当時と殆ど同じであることを材料科学的に立証された小原教授の話なども想像を超えたおどろきでありました。

また後者の幸田さんの本は、木に対する愛情あふれる見事な随筆集で、風で倒れた蝦夷松の大木の上に、その朽ちた幹を栄養源にして蝦夷松の種子が生い育ち、一列に並んで成長して蝦夷松の再生が行われるという大自然の靈妙な運行の話など考えさせられることの多い本でありました。しかしこの両著とも、こと『木の風格』のことにありますとあまり参考にはなりませんでした。

ところで或時ふと思いついたのが『生物学』のことです。木は植物であり人間は動物である、植物と動物はどこが違うのか、その辺に私の疑問を解く鍵が見出せようと思えたのです。そこで早速中学卒業以来何十年ぶりに『基礎生物学』という本を買って求め、ついでにちよつと目にとまったラリソン・カドモアという人の『生きてゐるとはどういうことか』という訳本と一緒に買って来て読んでみました。この二冊の本から教わったのは、これは全くの初歩的常識なのでしようけれども、植物と動物には根本的な違いがある、それは植物が独立栄養生物であるのに対し動物は従属栄養生物である、ということでした。つまり地球上の緑色植物は太陽の光エネルギーを吸収し、光合成によって炭酸ガスと水とから糖や澱粉などの炭水化物を合成し、自ら

の生育に必要な栄養を自給することが出来るのに対し、動物はそういった自給能力がなく、成長した植物をとって食べるかまたは植物を食べて成長した動物をとって食べるかしなければ成長出来ない、ということです。どうして生物が植物と動物に分れるのか、その辺のむずかしいことは分りませんが、その生物が『非植物』—動物はその代表ですが—と決つたときその生物は殺戮、捕食の運命を背負つたことになるのだそう、植物以外の生きものは、自分で栄養を賄うことが出来ず、非植物即ち動物は宿命として誰かを殺すか、誰かの厄介になるかしなければ死ぬしかないというのです。更に地球上の生物は凡ゆる面で植物のおかげを被っているようです。植物は太陽光で炭水化物を作ってくれるだけでなく、われわれ自身がくり出す毒性排泄物即ち炭酸ガスを消化して酸素を作つて呼吸を可能にしてくれますし、生命維持に不可欠の蛋白質やビタミンも元をただせば殆ど植物由来のものだといふことでもあります。

私は以上の生物に関する記述を読んで、これはかねて私が疑問として来た『木の風格』の由来に多分に関係するのではなからうかと、ひそかに前途に光明を見出したような気がしたのであります。しかし『生物』の本には、光合成は陸上の植物だけでなく海中の各種藻類や浮遊単細胞生物も行つていて、量的にはその方が陸上の合成よりむしろ多いとも書いてあります。私は木が他者を殺したりすることなく、自ら自分の栄養を賄って独立生存しているだけでなく、動物をはじめとする非植物に大きな恩恵を与えているところに、『木の風格』の根源があるのではないかと、ひそかに推理をめぐらせていたのですが、海中の浮遊単細胞生物も木と同じように光合成をやっているということになると、私の推理もいささか動揺をまぬかれず、『風格』問題は依然として解明されそうにありません。

学年だより



総会に元気で出席

に努めて居られる模様で、極めて元気である。特に入院療養された諸君が見事に社会復帰された精神力は驚嘆に値する。しかし、平成三年十二月広橋勉君が逝去、平成四年五月江崎重治君が、八月に進藤茂隆、永島忠郎の両君が逝去された。心からご冥福を祈る。

(小川浩正)

昭和十二年卒

イギリスのエリザベス女王が「一九九二年は本年にひとい年でした。」と言ったとか。我々にとっても昨年は悲しい年だった。正月早々高岩君が鬼籍に入り、夏には田中新市、暮れには古味の両君が逝去した。一挙に東京支部全員の割が欠けた訳だ。古稀を過ぎてからの坂はなかなか厳しい。それだけに昨年の海の中華ホテルの学年大会は思い出に残る。今年は五月名古屋だ。一度一度を大切にしたいもの。

(片桐貞夫)

昭和十四年卒

同期の皆さんお元気ですか。今年の定例懇親会は九月十三日(新橋あかね)、ゴルフ会は四月二十二日(大宮国際CC)及び十一月の二回を予定しています。詳細は追って連絡しますが、お互いに元気で再会するのを楽しみにしていますから、多数の参加を期待しています。

(野村俊雄)

昭和十三年卒

修猷五十星会(東京支部)の会員数は、現在二十九名。昨年も昼食会を高村君の配慮により隔月に開催。十一月の定例会は青山会館で一夕の宴を催して旧交を暖めた。各会員は息災延命

昭和十七年卒

いそしみ会
平成四年は我々の学年にとつて卒業五十周年の記念すべき年で、一年中いそしみ会で明け暮れたような気がする。五月の福岡の五十周年記念同窓会には百名以上が参集し、盛

昭和十九年卒



卒業50周年の記念に

平成四年度の東京修猷五十六会会東京近辺在住の四十三名。一月稲富抱一君、八月には田中英夫君が病魔に侵され、他界されました。誠に残念なことでありました。同級生等が骨をおつて未完のロマンを上下巻の本にした。文中使われる会話は彼がよく使っていた糸島弁であるが、版元で

昭和二十三年・二十四年卒

有田誠の死
同級の元民社党議員、有田誠が死んだ。名物男らしく「邪馬台国風雲録」なる小説を執筆中の突然死であった。同級生等が骨をおつて未完のロマンを上下巻の本にした。文中使われる会話は彼がよく使っていた糸島弁であるが、版元で

昭和二十年(四)卒

①東京修猷会、五月九日半蔵門福岡会館で開催。家族同伴多数。福岡、大阪からも参加あり盛会。②踐修会総会(福岡)、例年通り十一月三日開催。今年は総会前に特別行事として博多湾一周クルージングを乗し、大きく変貌した福岡を海から眺める。③昨秋九州大学学長に就任した和田光史君、五月母校修猷館で記念講演。④三俣啓一君、不動産管理の近代化貢献の功績により黄綬褒章を春に受賞。

(野上三男・田中庸夫)

昭和二十五年卒

平成四年も三木会と称して毎月第三木曜日に毎回十名前後の同期が集って歓談のひとときを持った。通算三十六回と回を重ねてきた。ゴルフ会も年二回開催している。全員選歴を過ぎて悠々自適の生活をする仲間も増えたが、暮らなって木村輝夫、武富礼二の両君が早過ぎる旅立ちをしてしまった。人生八十年の時代に同期の友が帰らぬ人となるというに言われぬ淋しさと残念さが残る。健康には十分留意して第二の人生とも言えるこれからの元気でいたいものだ。

(濱田桂一)

昭和二十八年卒

東京修猷会
ビジネスに遊びに励んできた二十八年卒のメンバーも五十八才となり、そろそろビジネスの第一線から撤退する状況になりつつあります。東京の同窓会はその中でも常時四十人ほどが出席する楽しい会となっております。本年は卒業四〇周年を迎えることになり、六月五日(土)に福岡で一泊の盛大な同窓会を開催する予定です。私たちは修猷館が女子にその門戸を開放した二年目の卒業生でもあります。

(松尾正弘)

昭和三十年卒

どげんしよるかい(会)！の合言葉のもと、六月の総会、一〇月の旅行会で久闊を叙すのを定例としている。尤も毎週の如く臨時集会を開くメンバーも多い。昨年の旅行会は又々東京急の原田兄を煩わし鬼怒川で開催、御上様同伴の参加も次第に増え、益々賑やかになってきた。紅葉狩り、ゴルフ、テニスと夫々に秋の一日を楽しんだ。現在会員は約百名、第二の職場への転進も増え、帰郷組もぼちぼち現れてきた。五年度の幹事は三組の諸師弟、よろしく。

(藤江武久)

昭和二十九年卒

六八会の近況
そろそろ自由な時間が持てる年代になってきたせいか何かにつけよく集まる。昨年は正月明け早々の新年会に始まり、四月には秋の総会時の料理の試食会と称して集まり、六月の東京修



学年便り書かなくては...

6・26 九段下。

平成5年度東京修猷会のご案内

今年の総会は、大先輩から若いOBまで、各世代の皆さんに楽しんでもらえる会にしたいと、只今、幹事一同で企画に工夫をこらしております。同期の皆様お誘いあわせの上、是非ご参加ください。

- 開催日 平成5年6月26日(土) 午後2時～6時
 - 場所 ホテルグランドパレス ダイアモンド・ルーム 千代田区飯田橋1-1-1 TEL03-3264-1111
 - 交通 地下鉄東西線・半蔵門線・新宿線 <九段下駅>下車徒歩1分
 - 会費 一般 10,000円 女性 7,000円 学生 5,000円
- ※尚、昭和20年までの御卒業の方と、本年3月の卒業生は、御招待させていただきます。

学年
だより

昭和三十三年卒

東京修猷三二会

平成四年七月四、五日の両日、在阪同期生のお世話で、卒業三十五周年行事が大阪で盛大に開催されました。初日は懇親会を東洋ホテルで、二次会は大阪市内の数会場で、二日目はバス二台を連ねて大和路をたずね、法隆寺、東大寺他の見学を行いました。尾嶋先生ご夫妻、小柳先生をはじめ各地より一〇〇余名の参加があり、楽しく旧交を温めました。

昭和三十三年卒

三三三のメンバーは、それぞれの職場のキーパーソンとして、平成不況のなか健闘しているようだ。六月の総会の時は、例によって松井君、川野さんの兩名が福岡から駆け付けてくれた。総会の時以外にも声を掛け合って集まろうぜ、というわけである。十一月某日、香崎温子さんの発案で、連絡がついた範囲で有志七人が新橋の有楽に集まり歓談した。懐具合は皆似たり寄ったり、残りの頭髪の資産格差はかなり有る。しかし青春の意気は相変わらず高い、というのがその時の個人的印象である。

(國分英臣)

昭和三十四年卒

暮れの二十四日に恒例の同期会が開催され、四十六人が集まった。

改まった挨拶は抜きでいきなり、近況等を話し始めるのが通例であるが、今回は「最近、内容が変わったから」と言ってお刺を交換するケースが多かった。



楽しかった35周年行事

我々も「ついにサラリーマン人生の最終区間

に入ったな」との感慨を深くした。

(水野務)

昭和三十五年卒

この度福井健二郎が福岡勤務となり、田代信吾が、今田正純、羽立教江と共に三五東会の世話係に。福井もそうだったが、田代、今田も出張が多く、不行届きの懸念あり。ご支援をよろしく願います。ちなみに今田は九月で四七の全都道府県を巡るという状態。そんな訳で九二年は三五東会開催せず、寂しいとの声あり。久しぶりの三三三一年一月二日、新宿住友クラブで開催、出席二五名。お互い五十才を越えて昔を懐かしむ時期となった。これからは、この会を大事にして新たな活力とした。

(今田正純)

昭和三十六年卒

今年度の三六会の活動は、九月にゴルフコンペを行い、総勢十三名の参加でした。

十一月には近畿修猷会の総会の幹事年のため東京から神崎君と私が応援に駆け付けました。さすが三六会のメンバー、盛大な会として盛り上がりついでに、さて、新年会(一月三十日)は久しぶりに四十名のメンバーを集め江戸の文化を満喫し落語を味わい、笑い転げた後上野の伊豆菜にて宴会となり、近畿をはじめ各地からの参加者も交じって、本場に盛り上がりました。もう五十代に突入した世代としては、これから十年を意義あるものにするためには、この会に参加し大いに楽しむ事が、その先の人生を意義あるものとする一里塚だと思っています。

(井島稔)

昭和三十七年卒

昭和三十七年卒業の三七会は、卒業三〇周年を記念して、在学中には実現できなかった修学旅行を行った。福岡本部の企画と金沢で旅行会社を営む仲間

(久保田康史)

昭和四十年卒

しつこう会

昨年は平成三年の総会運営の疲れからか、同期の会合が少なかった。五月に、鶴木賢治さんが、ヨット遊びの会を横浜で催して十数名の参加がありました。また、十一月末の忘年会には二十数名の参加がありました。今年の幹事は、五組の吉田貞一、渡辺史大の二人です。

昨年の異動、鳴川博之、名古屋、齊田秀実、福岡、清田秀昌、鹿児島、前崎喬、横須賀、宮本雄二、日本(東京)、近藤重克、大阪(予定)。

〇四七三三二二二七 (田中俊雄)

昭和四十一年卒

東京修猷会平成四年度総会を幹事担当学年として何とか乗り切った昭和四十一年卒ですが、それなりの成功感をじっくり味わう間もなく新しい年を迎えました。

昭和三十九年卒

東京三九会の皆さんお元気ですか。高校を卒業してから三十年近くな、時の流れの速さを感じます。

さて、今年は三九会が「修猷館同窓会総会」(於福岡)の幹事学年となっています。福岡では末永浩毅君を委員長に着々と準備が進められています。総会は、五月二十八日(金)一八時三〇分より、ホテルニューオータニ博

多にて、東京からも大勢で参加したいと思えます。ぜひ御予定下さい。それでは、福岡でお会いしましょう。

(工藤安信)

昭和四十二年卒

いよいよ今年は我々に東京修猷会総会運営の重任が廻ってきました。例年の幹事学年に比べ出足が遅いと、先輩各位に御心配をおかけした時期もありましたが、昨年六月以降精神的に準備を進めてきています。

従来活動の少なかつた我々ですが「東京一九修会」を結成し、今回の準備を通じ同期会を充実していこうと考えています。

何とか楽しく意義ある総会にしたいと考えていますので、各学年の皆様の御協力、多数の御参加をお願いします。

(土井芳夫)

昭和四十三年卒

東京四三会だより
修猷館を卒業して、はや二十五年。来年はいよいよ東京修猷会総会の幹事年。という訳で、我々東京四三会のメンバーも昨年九月十二日に「東京四三会全

(伊佐裕)

昭和四十四年卒

獅子の会

昨年十一月十一日(水)定例の二水会を盛大に開催。この会は五月、十一月の第二水曜日に集う獅子達の会であります。

集える健児(残念ながら女性の姿見えず)は、真に各分野の最前線で活躍中の面々、お互いの仕事、家庭(女房のこと)より子供の(こと)の近況報告であつ

と言う間には過ぎ、神田での二次会へ。大手証券会社の塚越君。この証券不況にかかわらずの出席と、この時代に負けない顔付と余裕は立派だとの声多数でした。心の奥底で我々を支える「ある魂」修猷で育まれた確かなものは、我々の永続的な原動力でしょう。昔の秀才もワルソウも一つに融けあい楽しい会でした。次の例会が待遠しい早春の日です。皆のご参加楽しみにしています。

(福嶋慎一)



若い会員も総会に参加



平成四年度の東京修猷会総会は、六月六日に昭和四十一年卒の諸君が幹事学年となり、昨年度のグラントパレスとは趣向をかえて、昨今若者の間で話題の、舞浜のデイズニールランド近くの「東京ベイホテル東急」で開催されました。

年配の会員の方々には若干馴染みの薄場所だったかと思われ、但し「話の聞いていただけ」来るのは初めて、という人もかなりいた様子で、総会後にホテル内を見物してまわる姿も数多く見受けられました。ただ、残念ながら、場所が違ったせい、出席者数は例年の数字に迄は達しませんでした。

総会は、例年通り、森田澄夫君（昭和四十一年卒）の指揮に

よる館歌斉唱で始まり、有吉会長の挨拶、宮野顧問の発声による物語者への黙禱がなされ、次いで事業並びに決算報告、事業計画と予算案が、いずれも満場一致で承認されました。

福岡からは、吉田館長、本部の平田常任幹事をはじめ多数の来賓、恩師の御出席もいただきました。

総会は、合唱部OBによる修猷歌の歌声の流れる中、稲富、奥田義郎、河原、渡辺暢平、北島康令の各先生を囲んでの楽しい一時が持たれました。

実行委員長の高橋章君をはじめ昭和四十一年卒の諸君のおかげで、立派な総会を開くことが出来ました。心から御礼を申し上げます。

'92 総会報告

幹事長 長野傳士

平成3年度東京修猷会会計報告〔自平成3.4.1〕

1. 通常収支の部 I. 一般会計

通常支出	金額	通常収入	金額
代家賃	1,200,000	3年度会費収入	3,083,000
事務通信費	2,081,242	寄付金収入	589,800
会議費	334,570	広告収入	925,000
事務用品費	55,918	銀行預金利息収入	10,270
コンピュータ関連費	294,955	有価証券配当収入	929,762
什器備品費	60,725	雑収入	12,000
振替郵便手数料等	68,746	会報発行引当金戻入	1,000,000
会報作成費	2,522,372		
雑費	191,371		
有価証券配当金租税	187,988		
二木会補助金	529,292		
通常収支剰余金	-977,347		
合計	6,549,832	合計	6,549,832

2. 特別収支の部

特別支出	金額	特別収入	金額
特別収支剰余金	133,687	名簿売却収入	5,600
		会費剰余金	128,087
合計	133,687	合計	133,687

二木会便り

細川護熙氏と二木会

水野 務 (S34卒)

東京修猷会二木会も、平成四年四月の定例会をもって、第四〇〇回を迎えました。

この記念すべき定例会には七十名を超える会員が参加し、大変盛況でした。

記念講演には同窓生以外からの特別ゲストとして、前熊本県知事の細川護熙氏をお迎えしました。

講演では、これからの日本のありかたについて、細川氏の切々たる思いをお伺いして全員大変感銘を受けました。

細川氏がその直後に日本新党を結成されたことは皆さん良くご存じの通りですが、後から考えると、我々が細川氏のお話を伺った時には既にその準備が進んでいて、第四〇〇回の記念二木会においてその趣意を事前に公開されたことになり、大変意義深い事だと思えます。

講演の内容を要約すると、

一、これからの日本は文化立国でなければならぬ

二、その為には、教育が最も重要

三、その実現を阻む原因は今の日本の官僚制度にある

細川氏はこれからその理想を実現するために邁進されることと思えますが、我々としても氏のご活躍を期待したいと思います。

1992年

1月	河井浩一 (S41卒) パリバ投資顧問 社長	「'92年の経済及び株式市場の見通し」
2月	塚本学 (S19卒) 国立歴史民族博物館 教授	「博物館の楽しみ方」
3月	中山悠 (S31卒) 明治乳業 社長	「酪農業の現状と将来」
4月	細川護熙 前熊本県知事	「本当の豊かさを求めて」
5月	小南憲二 (S40卒) 中央競馬会 調査役	「競馬をめぐる世界情勢」
7月	小阪修平 (S41卒) 評論家	「現代思想の状況と相対主義」
9月	有吉新吾 (S04卒) 三井鉱山 相談役	「無題」
10月	桑原敏一 (S15卒) 福岡市長	「国際都市として発展しつつある福岡市の現状と将来」
11月	近藤博彦 全農中央会 政策課長	「農協の21世紀戦略」
12月	忘年会	(芝弥生会館)

福祉の国のアリス

山内豊徳遺稿集 刊行

環境庁の元企画調整局長の山内豊徳氏の遺稿集「福祉の国のアリス」が故人の三周年忌を前に昨年未出版された。山内氏は修猷会、東京大学を卒業後、厚生省へ。障害福祉課を経て環境庁に移られ、事務次官の呼び声も高かったのであるが、水俣病訴訟の和解問題で奔走中に自ら生命を絶たれた。

氏は学生時代から一貫して福祉・公害行政にかかわってきた人だけに国と被害者との板ば

さみに苦しんでいたと言われているが、遺稿集には日本の福祉行政のあり方を見据えた論文などが納められている。

遺稿集は本のタイトルにもなっている「アリス・ヨハンソン」の名前で日本の福祉行政を論じた論文や他の専門誌に寄稿された随筆・論文などと学生のころからの詩、短編小説、友人、知人の寄稿からなっている。彼は福祉の原点は福祉を決して「奉仕」に封じ込めてはいけな

いうことを、またこれからの福祉は「人材の養成と技術の向上」が重要だということをお訴えしており、全編を通して山内氏の福祉に対する真摯な態度、苦しいまでの情熱を傾けていた姿が浮かび上がっており読むものを熱くさせる。

卒業生の諸氏にはぜひ一読を願って故人に代わってこれらの日本の福祉行政に熱い眼差しを注いで頂きたいと思うものです。(黒宮時代 S41卒)

お問い合わせ

八重岳書房

〇三 (三二六八) 一三五六七
定価二〇〇〇円

事務局だより

新執行部が発足して、早いもので九二年が経とうとしています。平成三年度は、引継ぎ早々にして大幅な赤字予想となり、急速「二木会会費の値上げ」を行ない、皆様方大変御迷惑をお掛けしました。結果的には、それにも拘らず、昨年度は、年間約百万円の赤字を出してしまいました。

東京修猷会の活動は、総会並びに二木会の運営と、会報の発行の三つが柱だと思われま

その中で、「会報の発行」は、同窓会の活動としては極めて有意義なものと思われま

に経費と労力を食うため、今年度から半分の四ページに削減することにしました。悪しからず御了承の程をお願いします。

それ以外の収支改善策としては、ひたすら「会員の増強」を図ることにし、しつこくお願いを繰り返しました。おかげ様で、今年度は、現時点で既に対前年四割増で過去最高の千四百人を越える方々に会費納入を戴いております。会員の皆様に心より御礼を申し上げます。

それ以外の報告事項としては、前執行部時代に購入したコンピュータが、田中俊雄君や田中まづるちゃんの努力によってシステムが完成し、在京同窓生五千五百人の把握、経理処理等に大きな威力を発揮しています。

執行部一同、皆様の御協力を得て、更に楽しい同窓会にすべく努力をするつもりです。今後ともよろしく願います。

編集後記

平成五年春、内外激動の時、様々な価値観が交錯しています。喜んだり、呆れたり、腹を立てたり、なるほどと思ったり。淡々と生活するのが難しい時代のようなです。(浩)

入会・住所変更の方は事務局へ

03-5950-1304